

Ⅶ 医 薬 分 業

1 概 況

医薬分業は、昭和31年に施行された「医師法、歯科医師法、薬剤師法の一部を改正する法律」により法制面の整備がなされ、特に、昭和49年10月に処方せん料が100円から500円に引上げられたことを契機に気運が高まった。

神奈川県における処方せん発行枚数は、徐々に増加の傾向を示しており、昭和49年10月に55,756枚であったものが、令和元年10月には約597万枚となり、約107倍の増加を示し、令和元年度において薬局の処方せん受取率は84.2%であり、患者10人に約8人が院外処方せんを受けていることになる。また、県内の保険薬局も昭和49年10月には1,100施設であったものが、令和2年3月末現在で、3,857施設に増加しており、薬局3,952施設の97.6%を占めるに至った。

上記のように、処方せん受取率は上昇したが、その一方で、受診した医療機関ごとに近くの薬局で調剤を受ける患者は未だ多く、医薬分業における薬局の役割が十分に発揮されておらず、患者も分業の効果やサービス向上など実感することができていない状況を踏まえ、厚生労働省では、患者本意の医薬分業の実現に向けて、かかりつけ薬剤師・薬局の今後の姿を明らかにするとともに、2025年、更に2035年に向けて、中長期的視野に立って、現在の薬局をかかりつけ薬局に再編する道筋である「患者のための薬局ビジョン」を平成27年10月に策定した。

さらに、厚生労働省厚生科学審議会医薬品医療機器制度部会において、これからの薬剤師・薬局の在り方が議論され、平成30年12月に医薬分業に関するレポートがとりまとめられ、とりまとめ内容を踏まえ改正医薬品医療機器等法が令和元年12月に公布された。

2 医薬分業の推進対策

(1) 薬局に対する指導

薬局は、調剤・医薬品の供給等を通じ、国民に対し、良質かつ適切な医療を供給し、地域保健医療に貢献するため、平成5年5月31日に「薬局業務運営ガイドライン」が制定されたことから神奈川県の運用方針を定め、薬局に対する指導指針とした。

(2) 小包装医薬品に対する指導

ア 昭和59年6月2日薬発第414号並びに平成4年3月27日薬発第295号薬務局長通知「小包装医薬品の円滑な供給について」に基づき、医薬品の使用及び管理の適正化、医薬分業の推進等の観点から小包装医薬品のより適正な供給を図るため、製造業者、卸売業者等関係者に対し指導を行っている。

イ 平成4年5月1日薬発第418号薬務局長通知「薬事法施行規則及び麻薬及び向精神薬取締法施行規則の一部改正について」において、医薬分業推進の観点から調剤の用に供するための医薬品の分割販売に際して、記載事項の一部の省略ないしは簡素化が図られたため、薬局等関係者に対し指導を行っている。

(3) 地域基幹薬局の強化拡充

医薬品の備蓄・供給・試験検査及び医薬品情報提供等の機能を有する地域基幹薬局の整備・拡充を図る(社)神奈川県薬剤師会の実施事業に対して助成を行った。
(平成元年度～6年度)

(4) 医薬分業推進支援センターの整備

地域における医薬分業を推進するとともに、県民に対する医薬品の供給体制の充実を図るため、医薬品の情報提供などの機能を備えた(社)神奈川県薬剤師会薬事情報センターに対し助成を行った。
(平成4年度)

(5) かかりつけ薬局推進モデル事業の実施

地域保健医療の一翼を担う「かかりつけ薬局」としての機能を円滑に推進するために厚木、足柄上保健所管内において、かかりつけ薬局推進委員会を設置し、モデル事業を行い、併せて県民、患者への普及啓発を行った。

(6) 在宅医療薬剤供給体制推進事業の実施

薬局・薬剤師が薬剤等の供給を通じて、在宅医療・地域医療への貢献を図るために(社)神奈川県薬剤師会が実施する研修・マニュアル作成等在宅医療薬剤供給体制推進事業に対して助成を行った。
(平成7年度～9年度)

- (7) かかりつけ薬局の服薬指導の充実強化
(社)神奈川県薬剤師会が実施する「患者向け薬の説明書」の作成普及事業に助成を行った。
(平成10年度～12年度)
- (8) 調剤事故防止対策
(社)神奈川県薬剤師会が実施する調剤事故防止対策事業に助成を行った。
(平成14・15年度)
- (9) かかりつけ薬局の定着促進
(社)神奈川県薬剤師会が実施するかかりつけ薬局定着促進事業に助成を行った。
(平成16～20年度)
- (10) 薬局在宅医療参加促進事業
(社)神奈川県薬剤師会が実施する薬局の在宅医療への参加促進事業に助成を行った。
(平成21～23年度)
- (11) 在宅医療提供拠点薬局整備事業
(社)藤沢市薬剤師会が会営薬局に設置する会員薬局が共同利用する無菌調剤室の整備に助成を行った。
(平成24年度)
- (12) 健康情報拠点薬局推進事業
(公社)神奈川県薬剤師会に委託し、薬と健康の相談窓口の設置、特定健診、がん検診等の受診率向上、塩分計を活用した食生活改善の取り組みなど、セルフメディケーションやかかりつけ薬局の推進を図った。
(平成26・27年度)
- (13) 薬剤師復職支援事業(地域医療介護総合確保基金)
(公社)神奈川県薬剤師会及び(公社)神奈川県病院薬剤師会が実施する育児等で離職していたり転職を希望する薬剤師が、円滑に復職・転職できる事業に対し助成を行った。
(平成26～28年度)
- (14) 在宅医療(薬剤)推進研修事業費補助(地域医療介護総合確保基金)
(公社)神奈川県薬剤師会が実施する訪問薬剤管理指導研修事業及び(公社)神奈川県病院薬剤師会が実施する褥瘡対策研修事業に対し助成を行った。
(平成26～30年度)
- (15) 患者のための薬局ビジョン推進事業
(公社)神奈川県薬剤師会に委託し、子育て世代、中高年世代、高齢世代を対象として、保育園や事業所等へ薬局薬剤師が出張し、薬や健康に関する相談を行い、かかりつけ薬剤師・薬局の普及定着の推進を図った。
(平成29年度)
(公社)神奈川県薬剤師会に委託し、在宅医療・介護における薬剤師業務実感事業(薬剤師等に対する地域ニーズの把握、薬剤師等と地域の多職種との連携推進)及び子育て世代を対象とした健康相談事業を行い、かかりつけ薬剤師・薬局の普及定着の推進を図った。
(平成30年度)
- (16) 地域における薬剤師・薬局の機能強化及び調査・検討事業
(公社)神奈川県薬剤師会に委託し、薬局の薬剤師が薬剤交付時以外にも、患者に対し必要な服薬状況の把握や薬学的知見に基づく指導を行うための「令和元年度かながわ服薬フォローアップ強化プロジェクト事業」を実施した。
(令和元年度)

3 処方せん枚数等

(1) 処方せん枚数、調剤金額、処方せん受取率

年度	処方せん枚数		調剤金額		処方せん受取率	
	(千枚)	対前年度比(%)	(百万円)	対前年度比(%)	(%)	対前年度比(%)
元年度	62,508	100.7%	539,768	103.8%	84.2	100.8%
30年度	62,089	101.7%	519,959	98.5%	83.5	101.2%
29年度	61,075	100.6%	528,056	101.6%	82.5	100.9%
28年度	60,695	101.2%	519,585	97.3%	81.8	101.6%
27年度	59,966	101.8%	534,071	108.5%	80.5	101.1%
26年度	58,906	101.0%	492,255	101.9%	79.6	100.8%
25年度	58,347	100.0%	482,918	105.0%	79.0	100.3%
24年度	58,368	101.6%	459,811	101.0%	78.8	100.3%
23年度	57,437	101.3%	455,112	107.8%	78.6	101.9%
22年度	56,683	104.5%	422,225	104.1%	77.1	103.2%
21年度	54,233	100.3%	405,707	106.5%	74.7	101.1%
20年度	54,055	101.9%	380,970	106.1%	73.9	102.5%
19年度	53,069	103.0%	359,117	108.5%	72.1	101.3%

(出典:(公社)日本薬剤師会資料)

(2) 処方せん発行状況 (令和元年12月全保険(社保+国保+後期)推計)

順位	総発行枚数		処方せん受取率	
	都道府県名	千枚	都道府県名	%
1	東京都	8,793	秋田県	90.7%
2	神奈川県	5,534	岩手県	87.6%
3	大阪府	4,703	青森県	87.1%
4	愛知県	3,920	新潟県	86.6%
5	埼玉県	3,901	神奈川県	86.1%
6	福岡県	3,296	宮城県	85.6%
7	千葉県	3,265	北海道	85.0%
8	兵庫県	3,225	佐賀県	83.7%
9	北海道	2,963	島根県	83.2%
10	静岡県	2,109	東京都	82.2%
全国平均	—	1,530	—	76.6%

(出典:(公社)日本薬剤師会資料)

(3) 健康サポート薬局届出状況(令和2年3月31日)

119件

内訳:平塚市:1件、鎌倉市:5件、逗子市:1件、秦野市:1件、伊勢原市:1件、
厚木市:2件、海老名市:2件、大和市:4件、真鶴町:1件、湯河原町:1件
横浜市:62件、川崎市:19件、相模原市:8件、横須賀市:4件、藤沢市:6件、
茅ヶ崎市:1件

(4) 年次別保険調剤の処方せん枚数等比較表

年 度	社 会 保 険			国 民 健 康 保 険			合 計		50年を100とした時の指数	
	枚数 (千枚)	金額 (百万円)	請求 薬局数	枚数 (千枚)	金額 (百万円)	請求 薬局数	枚数 (千枚)	金額 (百万円)	枚 数	金 額
昭 和 50 年 度	805	1,236	5,291	295	475	9,695	1,100	1,712	100	100
令 和 元 年 度	29,558	153,948	46,088	32,501	328,371	91,403	62,059	482,319	5,642	28,173
平 成 30 年 度	29,550	145,090	45,324	32,497	320,052	90,155	62,047	465,142	5,641	27,170
平 成 29 年 度	28,965	143,947	44,931	31,336	331,781	89,167	60,301	475,728	5,482	27,788
平 成 28 年 度	28,040	138,798	44,570	32,767	331,048	88,364	60,807	469,846	5,528	27,444
平 成 27 年 度	27,249	138,084	43,674	32,820	346,114	86,864	60,069	484,198	5,461	28,283
平 成 26 年 度	26,420	125,982	42,952	32,592	319,471	85,506	59,012	445,453	5,365	26,019
平 成 25 年 度	25,987	122,848	42,163	32,470	314,144	84,017	58,457	436,992	5,314	25,525
平 成 24 年 度	26,247	118,420	40,905	32,240	297,209	81,296	58,487	415,629	5,317	24,277
平 成 23 年 度	25,909	117,439	39,653	31,681	293,657	79,039	57,590	411,096	5,235	24,013
平 成 22 年 度	25,981	111,221	38,833	30,874	269,633	77,419	56,855	380,854	5,169	22,246
平 成 21 年 度	24,755	106,953	37,960	29,643	258,797	75,718	54,398	365,750	4,945	21,364
平 成 20 年 度	25,016	102,583	37,450	29,102	239,189	86,088	54,118	341,772	4,920	19,963
平 成 19 年 度	24,376	95,352	36,867	27,679	217,347	78,213	52,055	312,699	4,732	18,265
平 成 18 年 度	24,893	97,000	36,197	26,819	199,904	81,405	51,712	296,904	4,701	17,343

(薬務課調べ)

(5) 保険調剤の処方せん枚数等比較表

年 月	請求件数(件)	発行枚数(件)	金額(百万円)	昭和49年10月を100としたときの指数	
				発 行 枚 数	金 額
昭和49年10月	32,954	55,756	89	100	100
令和元年10月	4,220,002	5,084,760	39,066	9,120	43,894
平成30年10月	4,200,735	5,107,279	36,840	9,160	41,393
平成29年10月	4,062,100	4,972,894	38,645	8,919	43,421
平成28年10月	3,941,901	4,849,856	37,604	8,698	42,252
平成27年10月	3,851,242	4,754,212	38,871	8,527	43,675
平成26年10月	3,849,080	4,825,005	36,239	8,654	40,718
平成25年10月	3,624,110	4,511,449	34,016	8,091	38,220
平成24年10月	3,520,287	4,406,241	31,602	7,903	35,508
平成23年10月	3,511,294	4,490,708	32,630	8,054	36,663
平成22年10月	3,538,867	4,328,555	29,805	7,763	33,489
平成21年10月	3,357,123	4,368,816	29,871	7,836	33,563
平成20年10月	3,205,758	4,247,321	27,327	7,618	30,704
平成19年10月	3,404,957	4,791,797	32,000	8,594	35,955
平成18年10月	3,153,382	4,419,177	28,072	7,926	31,542
平成17年10月	3,004,478	4,265,425	26,856	7,650	30,175

(薬務課調べ)

(6) 薬局及び保険薬局の地域別店舗数一覧

令和2年3月末現在

区 分	地 域 名	薬 局 数	保 険 薬 局 数
保 健 所 設 置 市	横 浜 市	1,602	1,567
	川 崎 市	601	598
	相 模 原 市	299	285
	横 須 賀 市	193	188
	藤 沢 市	219	212
	茅 ヶ 崎 市 (寒 川 町 含 む)	114	110
	小 計	3,028	2,960
県 保 健 福 祉 事 務 所 管 内	平塚保健福祉事務所	157	152
	平塚保健福祉事務所 秦野センター	105	101
	鎌倉保健福祉事務所	136	135
	鎌倉保健福祉事務所 三崎センター	19	19
	小田原保健福祉事務所	125	117
	小田原保健福祉事務所 足柄上センター	49	49
	厚木保健福祉事務所	204	200
	厚木保健福祉事務所 大和センター	129	124
	小 計	924	897
合 計	3,952	3,857	

(薬務課調べ)

Ⅷ 献血事業の推進

1 概況

神奈川県は、昭和39年の「献血の推進について」に関する閣議決定以来順調に進展しており、現在県内の医療機関で必要とされる輸血用血液については献血により確保されている。

しかし、近年の医学・薬学の進歩、高齢社会の到来等により使用量が急増している血漿分画製剤については、その多くを外国からの輸入に依存していたため、その安全性、倫理性、安定供給の面から自給対策が大きな課題となってきた。

このため国では、国内で必要とする血液製剤を献血で確保する体制の確立と血液製剤の安全性の向上を図るため、昭和61年度から従来の200mL献血に加え、成分献血・400mL献血を導入するとともに血液製剤の使用適正化の推進を図ることとした。

さらに、新血液事業検討推進委員会の第一次報告及び第二次報告が提出され、これに基づきすべての血液製剤を国内自給するための諸施策が実施されてきた。

この結果、特に緊急の課題であった血液凝固因子製剤の国内自給については、平成5年度から一部の特殊な製剤を除きすべて国内自給されており、他の血漿分画製剤についても今後段階的に自給率を高めていくこととしている。

このような現状のもと、平成15年7月に血液事業全般に係る法的枠組として安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律が施行され、献血の推進が地方公共団体の責務に位置付けられたことから、本県では成分献血・400mL献血を中心とした献血の推進を図ることとし、広く県民に献血思想の普及を図るとともに献血の受入が円滑に実施されるよう努めている。

※令和元年度献血者数 本県 316,940人
全国 4,926,488人

2 献血の推進

(1) 献血推進協議会等の開催

献血推進協議会は献血思想の普及及び献血制度の適正な運営の確保を目的に、昭和40年1月に設置され、献血推進計画及び献血事業の諸問題等について協議を行っている。令和元年度の開催状況は次のとおりである。

年 月 日	場 所	出席委員	協 議 事 項
令和2年2月5日	日本赤十字社神奈川県支部会議室	14人	・令和2年度の献血推進計画(案)について(協議) ・令和元年度の献血事業について(報告)

(2) 献血の普及及び広報

医療に必要なすべての血液製剤を献血により確保する体制の確立を目指し、全国一斉に実施する7月の「愛の血液助け合い運動」及び冬期の「はたちの献血キャンペーン」に加え、広く県民に献血思想の普及と成分献血・400mL献血への理解と協力を求めるため、平成元年度より春と秋の年2回、「かながわ献血キャンペーン」を実施している。このほか、年間を通じて報道機関、ポスター、チラシ等により広報を行うとともに献血功労者の表彰を実施した。

また、献血の若年層に対する普及啓発活動として、献血啓発動画「あなたので誰か命を救えます」をホームページ等で配信したほか、献血模擬体験「キッズ」の実施、県内高等学校生徒、約63,000人への啓発チラシの配布を行った。

ア 献血キャンペーン実施状況

① 全国的なキャンペーン

媒体	愛の血液助け合い運動 (令和元年7月1日～31日)	はたちの献血キャンペーン (令和2年1月1日～2月29日)
ポスター	1,780枚	1,700枚
広報媒体	<ul style="list-style-type: none"> 県ホームページ掲載 県薬剤師会雑誌「薬壺」掲載 薬務課Twitter 	<ul style="list-style-type: none"> 県ホームページ、「県のとより」掲載 県薬剤師会雑誌「薬壺」掲載 薬務課Twitter セブン-イレブン(県内1,350店)各10部リーフレット配架

② かながわ献血キャンペーン

媒体	春のかながわ献血キャンペーン (平成31年4月1日～令和元年5月31日)	秋のかながわ献血キャンペーン (令和元年10月15日～11月30日)
ポスター	3,000枚	3,000枚
広報媒体	<ul style="list-style-type: none"> 県ホームページ 薬務課Twitter 「県のとより」掲載 	<ul style="list-style-type: none"> 県ホームページ掲載 薬務課Twitter
その他	<ul style="list-style-type: none"> イオン19店舗ポスター掲示 毎日新聞特集記事「ささえあって」掲載 	<ul style="list-style-type: none"> KANAGAWA Muffin (FM横浜)放送 相鉄線トレインビジョン、神奈川県警察運転免許センター電子掲示板、県内自動車教習所、相模原市及び藤沢市内街頭ビジョン等での動画放映

イ 令和元年度の表彰状況

区分	知事表彰	保健福祉事務所長表彰	厚生労働大臣表彰
実施日	令和元年10月21日(月)	令和元年10月～11月	令和元年7月19日(金)
場所	日本赤十字社神奈川県支部会議室	県各保健福祉事務所	日本赤十字社神奈川県支部会議室
大会名	令和元年度献血推進功労者知事表彰式	—	令和元年度厚生労働大臣表彰式・感謝状伝達式
被表彰者数	19団体(表彰状19)	11団体(表彰状11)	7団体(表彰状2、感謝状5)

ウ キッズ献血実施状況

	場所	実施日	参加者(人)		
			子ども	保護者	計
会場	アリオ橋本	令和元年8月3日～4日	359	652	1,011

エ 献血セミナー実施状況

	実施校数	献血者数	参加者数
中学校	3校	-	91人
高等学校	4校	838人	2,269人

3 神奈川県赤十字血液センターの状況

(1)血液センター・献血ルームの概要

令和2年4月1日現在

区分	採血施設名	設置場所	開設時期		管轄区域
血液センター	神奈川県赤十字血液センター	横浜市港北区大豆戸町680-7 TEL045(834)4611	(開所) 平成29年7月	移動採血車による採血	横浜市、川崎市、横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
事業所	神奈川県赤十字血液センター湘南事業所	厚木市愛甲1837 TEL046(228)9818	(開所) 平成29年7月	移動採血車による採血	相模原市、平塚市、小田原市、茅ヶ崎市、秦野市、厚木市、大和市、伊勢原市、海老名市、座間市、南足柄市、綾瀬市、藤沢市、寒川町、大磯町、二宮町、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町、愛川町、清川村
出張所	神奈川県赤十字血液センター横浜駅西口出張所	横浜市神奈川区鶴屋町2-23-2 TSプラザビル1階 TEL045(314)7082	(開所) 昭和53年6月 (移転) 平成12年3月	毎日 (年末年始、5月の第4日曜日を除く)	
	神奈川県赤十字血液センター横浜駅東口出張所	横浜市西区高島2-13-2 横浜駅前共同ビル7階 TEL045(444)1088	(開所) 平成20年3月	毎日 (年末年始を除く)	
	神奈川県赤十字血液センター二俣川出張所	横浜市旭区中尾1-1-2 TEL045(361)0330	(開所) 昭和42年4月 (移転) 昭和63年1月 平成30年5月	日曜日～金曜日 (土曜日、年末年始・祝日を除く)	
	神奈川県赤十字血液センター横浜駅西口第二出張所(Leaf)	横浜市西区北幸1-6-1 横浜ファーストビル14階 TEL045(534)7173	(開所) 平成27年1月	毎日 (年末年始を除く)	
	神奈川県赤十字血液センター川崎駅東口出張所	川崎市川崎区日進町1-11 川崎ルフロン9階 TEL044(245)1857	(開所) 昭和61年10月 (移転) 平成23年8月	毎日 (年末年始を除く)	
	神奈川県赤十字血液センター溝の口出張所	川崎市高津区溝口1-3-1 ノクティブラザ1 10階 TEL044(813)0311	(開所) 平成9年9月	毎日 (年末年始を除く)	
	神奈川県赤十字血液センター藤沢出張所	藤沢市南藤沢21-8 大安興業ビル2階 TEL0466(25)8877	(開所) 平成3年1月 (移転) 平成5年4月 平成21年9月	毎日 (年末年始を除く)	
	神奈川県赤十字血液センター本厚木出張所	厚木市中町2-8-13 TPR厚木ビル1階 TEL046(225)7001	(開所) 平成3年9月 (移転) 平成14年6月	毎日 (年末年始を除く)	

(2) 血液センター及び事業所の現況

区分 \ 施設名	神奈川県 赤十字血液センター	神奈川県 赤十字血液センター 湘南事業所
建設年度	平成29年度(新築)	昭和63年度(既存棟) 平成19年度(増築棟)
建築延べ面積	4,457.81㎡	6,260.81㎡
敷地面積	5,521.56㎡	10,482.02㎡
土地所有者	日本赤十字社	日本赤十字社(一部借地)

※湘南事業所の建物延べ面積および敷地面積については、関東甲信越ブロック血液センター神奈川製造所を含む。

4 献血及び供給状況（※資料提供：神奈川県赤十字血液センター）

(1) 献血

年度別献血目標

年度	区 分	献 血 目 標	献 血 実 績	対前年度比(%)	目標達成率(%)
元年度	献 血 者 数	313,672(人)	316,940(人)	104.7	101.0
	献 血 量	136,795(ℓ)	140,652(ℓ)	113.4	102.8
30年度	献 血 者 数	307,757(人)	302,620(人)	101.5	98.3
	献 血 量	126,959(ℓ)	124,060(ℓ)	101.4	97.7
29年度	献 血 者 数	309,186(人)	298,216(人)	99.1	96.5
	献 血 量	126,298(ℓ)	122,394(ℓ)	98.2	96.9
28年度	献 血 者 数	305,483(人)	301,032(人)	101.1	98.5
	献 血 量	122,901(ℓ)	124,660(ℓ)	103.3	101.4
27年度	献 血 者 数	313,445(人)	297,871(人)	100.4	95.0
	献 血 量	126,512(ℓ)	120,669(ℓ)	111.7	95.4

※医療機関の需要に応じた献血の受け入れを行っているため、目標達成率は100%以下となる場合がある。

年度別献血者数及び献血量

年度	区 分	献血者数(人)			献血量(ℓ)	
			200mL献血	400mL献血		成分献血
元年度	人 数	316,940	9,976	201,485	105,479	140,652
	対前年度比(%)	104.7	92.6	100.2	116.3	113.4
30年度	人 数	302,620	10,769	201,154	90,697	124,060
	対前年度比(%)	101.5	105.7	99.3	106.1	101.4
29年度	人 数	298,216	10,193	202,579	85,444	122,394
	対前年度比(%)	99.1	107.5	101.4	93.2	98.2
28年度	人 数	301,032	9,483	199,836	91,713	124,660
	対前年度比(%)	101.1	75.2	101.8	103.0	103.3
27年度	人 数	297,871	12,612	196,258	89,001	120,669
	対前年度比(%)	100.4	95.9	100.6	100.4	111.7

男女別・年齢別献血者状況

令和元年度(単位:人)

区分	年齢別	性別	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	計
200mL献血	男		1,116	127	46	49	56	17	1,411
	女		3,272	1,925	857	1,256	1,080	175	8,565
400mL献血	男		6,064	19,728	24,490	43,620	44,697	14,587	153,186
	女		2,420	9,571	7,644	12,543	12,351	3,770	48,299
成分献血	男		682	5,394	10,696	22,126	25,448	9,069	73,415
	女		1,017	6,008	5,895	8,573	8,087	2,484	32,064
小計	男		7,862	25,249	35,232	65,795	70,201	23,673	228,012
	女		6,709	17,504	14,396	22,372	21,518	6,429	88,928
合計			14,571	42,753	49,628	88,167	91,719	30,102	316,940
構成比(%)			4.6	13.5	15.7	27.8	28.9	9.5	100.0

年度別・年齢別献血者状況

年度	年齢別	区分	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	計
元年度	人数(人)		14,571	42,753	49,628	88,167	91,719	30,102	316,940
	%		4.6	13.5	15.7	27.8	28.9	9.5	100.0
30年度	人数(人)		15,379	42,250	48,314	87,326	82,119	27,232	302,620
	%		5.1	14.0	16.0	28.9	27.1	9.0	100.0
29年度	人数(人)		14,879	42,620	49,710	88,863	76,364	25,780	298,216
	%		5.0	14.3	16.7	29.8	25.6	8.6	100.0
28年度	人数(人)		14,834	43,955	53,000	92,432	71,552	25,259	301,032
	%		4.9	14.6	17.6	30.7	23.8	8.4	100.0
27年度	人数(人)		14,284	43,887	53,487	92,962	68,320	24,931	297,871
	%		4.8	14.7	18.0	31.2	22.9	8.4	100.0

年度別・職業別献血者状況

年度	職業	区分	公務員	会社員	学生		その他	計
					高校生	その他		
元年度	人数(人)		32,633	202,599	6,413	16,522	58,773	316,940
	%		10.3	63.9	2.0	5.2	18.5	100.0
30年度	人数(人)		31,196	192,483	6,628	16,695	55,618	302,620
	%		10.3	63.6	2.2	5.5	18.4	100.0
29年度	人数(人)		30,247	189,446	6,280	17,086	55,157	298,216
	%		10.1	63.5	2.1	5.7	18.5	100.0
28年度	人数(人)		30,549	189,789	6,055	17,424	57,215	301,032
	%		10.1	63.0	2.0	5.8	19.0	100.0
27年度	人数(人)		29,360	186,546	6,293	16,785	58,887	297,871
	%		9.9	62.6	2.1	5.6	19.8	100.0

※「構成比」は端数処理しているため、合計が必ずしも100%にはならない。

カ 受入施設別献血状況

受入施設	年度	令和元年度			(令和元年度内訳)			平成30年度		
		人数	構成比	前年比	200mL	400mL	成分	人数	構成比	前年比
県内合計		316,940	100.0	104.7	9,976	201,485	105,479	302,620	100.0	101.5
出張所	横浜 Leaf	43,917	13.9	108.5	848	18,039	25,030	40,464	13.4	102.9
	横浜 西口	18,137	5.7	100.3	237	9,740	8,160	18,083	6.0	100.5
	横浜 東口	40,079	12.6	110.9	773	18,599	20,707	36,129	11.9	109.0
	二俣 川	19,955	6.3	111.7	538	19,417	0	17,865	5.9	100.9
	かわ さ き	39,565	12.5	108.8	643	18,722	20,200	36,358	12.0	101.7
	みぞのくち	19,816	6.3	114.0	339	9,218	10,259	17,386	5.7	104.5
	藤 沢	18,944	6.0	107.6	259	8,621	10,064	17,604	5.8	96.7
	本 厚 木	20,344	6.4	106.0	306	8,979	11,059	19,200	6.3	100.0
	小 計	220,757	69.7	108.7	3,943	111,335	105,479	203,089	67.1	102.6
	血液センター	移動採血車	47,846	15.1	97.1	3,332	44,514	0	49,292	16.3
オープン採血		3,157	1.0	81.2	254	2,903	0	3,889	1.3	112.4
小 計		51,003	16.1	95.9	3,586	47,417	0	53,181	17.6	97.1
事業所	移動採血車	44,113	13.9	97.3	2,368	41,745	0	45,330	15.0	101.4
	オープン採血	1,067	0.3	104.6	79	988	0	1,020	0.3	121.9
	小 計	45,180	14.3	97.5	2,447	42,733	0	46,350	15.3	101.8

キ 献血不採血者数内訳

令和元年度

項目 男女別	受付者数 (人)	不採血者数 (人)	前年比 (%)	不採血率 (%)	不採血者数内訳	
					比重不足者数(人)	その他(人)
男	243,679	15,667	94.4	6.4	3,795	11,872
女	112,040	23,112	87.3	20.6	12,596	10,516
計	355,719	38,779	90.0	10.9	16,391	22,388

(2) 供給

ア 年度別・製剤別供給状況

(単位:200mL由来換算)

年度	全 血		赤 血 球		血 漿		血 小 板		合 計	
	供給数	構成比(%)	供給数	構成比(%)	供給数	構成比(%)	供給数	構成比(%)	供給数	構成比(%)
元年度	0	0.0	402,093	37.1	149,457.0	13.8	533,270	49.2	1,084,820.0	100.0
30年度	0	0.0	398,022	36.4	145,779.0	13.3	550,732	50.3	1,094,533.0	100.0
29年度	0	0.0	403,133	36.3	155,924.0	14.0	550,966	49.6	1,110,023.0	100.0
28年度	0	0.0	404,070	34.2	225,586.5	19.1	550,665	46.7	1,180,321.5	100.0
27年度	0	0.0	395,378	34.0	221,501.5	19.0	546,784	47.0	1,163,663.5	100.0

※「構成比」は端数処理しているため、合計が必ずしも100%にはならない。

イ 製品別供給状況

(単位:200mL由来換算)

種	類	元年度	30年度	29年度
全血製剤	人全血液-LR「日赤」 (旧人全血液CPD)	0	0	0
	小計	0	0	0
血液成分製剤	赤血球濃厚-LR「日赤」 (旧赤血球M・A・P)	401,414	397,454	402,730
	洗浄赤血球液-LR「日赤」 (旧洗浄赤血球)	666	557	379
	解凍赤血球液-LR「日赤」 (旧解凍赤血球濃厚液)	2	2	20
	合成血液-LR「日赤」 (旧合成血)	11	9	4
	※新鮮凍結血漿-LR「日赤」 (旧新鮮凍結血漿)	149,457.0	145,779.0	155,924.0
	濃厚血小板「日赤」 (旧濃厚血小板)	524,340	541,102	539,741
	濃厚血小板HLA「日赤」 (旧濃厚血小板HLA)	8,930	9,630	11,225
	小計	1,084,820.0	1,094,533.0	1,110,023.0
合計		1,084,820.0	1,094,533.0	1,110,023.0

※新鮮凍結血漿-LR「日赤」の単位数換算が平成29年度より変更。

Ⅹ 災害時医薬品等の確保対策

1 災害時医薬品等の調達

地震等の医療救護に必要な医薬品及び医療機材等の緊急調達を迅速に実施できるよう神奈川県医薬品卸業協会(平成6年5月27日締結)等との間に「医薬品等の供給に関する協定」を締結しており、必要があるときは業者の保有する医薬品等を災害発生時直前の適正な価格で調達できるようになっている。

2 災害用血液製剤の確保

地震等の災害発生時における血液の緊急需要に備えるため、日本赤十字社神奈川県支部と「災害用血液製剤の確保に関する協定」(平成26年9月17日)を締結し、負傷者の治療に迅速に対応できる体制をとっている。

3 国有ワクチンの供給

患者の治療に迅速に対応できるようにするため、「国有ワクチン等事務取扱マニュアル」を定め、要請を受けた医療機関に、速やかに国有ワクチンを供給できる体制をとっている。

供給状況

年度	乾燥ガスエソ ウマ抗毒素	乾燥ジフテリア ウマ抗毒素	乾燥組織培養 不活化狂犬病 ワクチン	乾燥ボツリヌス ウマ抗毒素 (ABEF型)	乾燥ボツリヌス ウマ抗毒素 (E型)
元年度	—	—	—	—	—
30年度	—	—	1	1	—
29年度	—	—	—	1	—
28年度	—	—	—	—	—
27年度	—	—	—	—	—

※ 県であらかじめ購入するのではなく、国と連携を図り供給する方式に変更

4 解毒剤の備蓄

毒物劇物による中毒のうち、特に毒性が強く迅速に対処する必要があるシアン化合物、ヒ素及び有機リン剤による中毒に対して、医療機関からの緊急要請に対応するため、危機管理対策の一環として県があらかじめ購入し、神奈川県医薬品卸業協会の会員業者に備蓄している。

中毒の種類	品名	備蓄総量	保管数量		
			横浜地区	県央地区	県西地区
シアン化合物	デトキソール注	500管	250管	150管	100管
ヒ素	バル注	400管	200管	150管	50管
有機リン剤	パム注	300管	150管	100管	50管